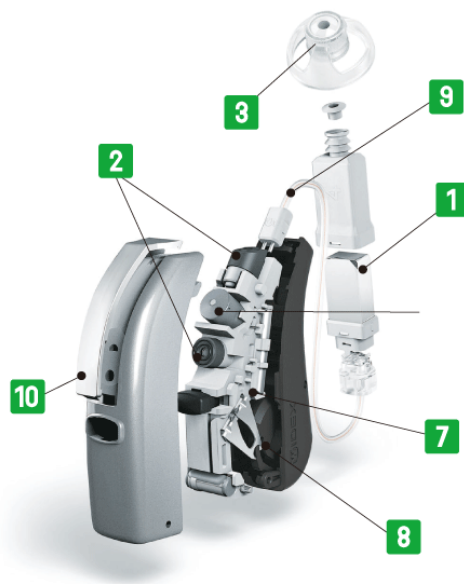


こんにちは。補聴器・メガネ・宝飾の丹羽です。

先日、上の娘が風邪気味になった時のこと。保育園行けるか聞いたら「保育園楽しいから行く！」と、返事が帰ってきました！年少の頃は少し体調が悪いと駄々をこねて行くのをためらっていましたが、保育園が好きと言ってくれるのはとても嬉しく成長したなと思うと同時に、少しさみしく感じます。

中身って、こんなふうになってるの？！ 補聴器の構造。(耳かけ)

- ①レシーバー・・・音を出す部分。超小型スピーカーが入っています。
- ②マイクロフォン・・・音を拾う超小型マイク。機種によって複数搭載され、音を拾う範囲を自動調整します。
- ③音の出口・・・耳垢の侵入を防ぐ部品が入っています。
- ⑦アンプ・・・デジタル補聴器の心臓部。ここには、信号処理能力の高いマイクロチップが搭載され、補聴器に入ってきた音を使う人の聞き取りやすい音に変える作業をしています。
- ⑧電池室・・・機種によって、様々な大きさの空気電池を使います。
- ⑨イヤワイヤー・・・本体と耳栓をつなぐワイヤ。補聴器をつけていてもほとんど目立ちません。
- ⑩マイクカバー・・・風が補聴器にあたる時に起こる「風切り音」を軽減するよう独自の形状に設計されています。また、表面の特殊なコーティングにより、汗や湿気が補聴器の中に入るのを防ぎます。



補聴器のプロが教えます！ 失敗しない補聴器の選び

補聴器は、どんなに優れた製品でも、調整が悪かったり使い方の指導が不十分だったりすれば、本来の性能を発揮することができません。また、パソコンや家電製品のように我流で使えるものではありません。難聴の程度や特徴、改善したい「聞こえ」の場面などによって、選ぶ製品の種類が変わります。では、補聴器を選ぶ際には、どんなことに注意すればよい

目的や場面、予算などを決める

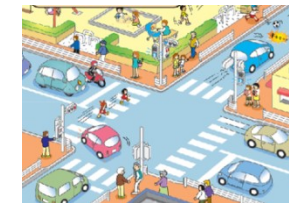
補聴器を必要とする「聞こえ」の状態や難聴の程度は人それぞれですから、補聴器取扱店に行くときには補聴器を使う目的や場面、予算などをあらかじめ決めておくことが大切です。

目的や場面とは、たとえば

「家族と一对一の会話がしたい」

「会議や講習会など複数の人が話す場面で聞き取りたい」

「テレビを家族と同じ音量で観たい」などです。



- ・基本価格帯＝4万～10万円
- ・普及価格帯＝11万～20万円
- ・中価格帯＝21万～27万円
- ・高価格帯＝28～35万円
- ・超高価格帯＝36万円以上

よい補聴器取扱店を選ぶには

補聴器は薬事法で定められた医療機器です。

「認定補聴器専門店」の表示がある店で選ぶことをおすすめします。この認定補聴器専門店は知識と経験のある認定補聴器技能者がいて、設備も整っているところにしか認定されていません。補聴器は「買ったからおしまい」ではなく、むしろ、その後のメンテナンスやアフターサービスが使い勝手を左右する製品です。だからこそ、店選びが重要になってくるのです。



財団法人テクノエイド協会

認定プレー



認定補聴器技能者

丹羽英樹

補聴器は使用状況や使い方によって、急に調子が悪くなることがあります。そんな時にすぐに対応できるよう、なるべく近くのお店での購入をお勧めします。補聴器の丹羽では、お客様の補聴器が調子悪くなって当店までご来店できない場合、即日または翌日にはお伺い致します。便利な定期訪問

補聴器の丹羽 ホームページのご紹介
— 新発売の補聴器情報公開中！ —

補聴器の丹羽

検索 ← クリック

